

第16回県中学選手権 神戸市予選終了 県大会へ出場する7代表が決定

第16回県中学選手権大会神戸市予選は9月23日から10月10日まで市内各中学校で行われ、各ブロック5チームによるトーナメントの結果、県大会出場の7チームが決定した。

本年度から、県協会主催の中学生(第3種)の大会が一部手直しされ、本大会も5年ぶりに中学3年生の出場が可能となった。しかし、神戸市のほとんどのチームがすでに1、2年生の新チームに切り替えており、中3抜きのチームや、入ってもせいぜい2、3人とい

＜成績＞

A	本	山	2	C	電	ケ	台	1	2
上	野	川	6	東	神	戸	朝	鮮	5
湊	川	1	3	匠	匠	匠	匠	匠	17
神戸FC	4	6	4	六	甲	5	0	1	
市	引	0	0	滝	川	0	0	1	
B	魚	崎	3	D	丸	山	0	7	
御	影	1	1	西	代	1	5		
瀬	田	1	0	西	神	戸	朝	鮮	5
廣	①	0	0	港	島	3	0	0	
高	倉	1	0	友	ヶ	丘	0	0	

PK 5-4

第2回神戸ミニサッカーに参加して 神戸聖生園々長 金附洋一郎

障害者チームの一員として初めてミニサッカーに参加いたしましたが、当日はたくさんの少年チーム、ママさんチームのファイト溢れるプレーを見て、急造でパスワークも不慣れでルールもおぼつかない我がチームについて心配がきませんでした。

お昼前の11時40分、いよいよ障害者Aグループの対戦となり、揃いのユニホームが用意できなかったのでゼッケンを借用し、なんとか格好をつけて選手は緊張のうちに第1試合のホイッスルを待ちました。

相手、陽気会チームの気分が熱くない開始早々、守備の乱れをついて幸先よい1点を先取しました。一進一退のうち、前半の終了間際に相手8番の鋭いシュートで同点に持ち込まれ、後半は選手をがらりと変えて防戦につとめたせいか、1対1の引き分けとなりました。

第2戦は強剛?玉津むつみに善戦し、なんとか2対2の引き分けとなりました。

結局Aグループは三すくみで、ジャンケンの結果2位となり初参加の面目をほどこしましたが、イレブンならぬシックスは参加章をもらって大喜びでした。

早朝から熱心な審判員のお骨折りと好天の中で活気あるハッスルプレーに楽しい1日を過ごさせて頂き感謝いたします。

第2回神戸ミニサッカーに参加して 養護施設明星寮 坂田 勝彦

私達施設職員は最近の養護施設をとりまく多様な問題に日常の生活起居を通して社会の健全なる一員となるよう指導処遇を行っているものでありますが、毎日数多く起る困難に苦慮しているものであります。

昨年9月15日、「月刊神戸のサッカー」発

たチームが大多数であった。

ブロックによっては有力なチームのつぶしあいとなつたところもあるが、勝ち残った7チームはいずれも実力を持った好チームとみられている。記録的なスコアを挙げた東神戸朝鮮初中級学校、3試合無失点の西神戸朝鮮初中級学校、県大会では常連の神戸FCに加え、センスのよい選手を擁する山田、太田などのチームは県大会でも上位進出を狙えるものと期待される。3試合無失点の西神戸朝鮮

PK 3-4

刊100号記念として市立磯上球技場にて第1回ミニサッカー大会が開催された際、市の民生局児童家庭課から養護施設児童の参加のおすそめを受けましたので、ミニサッカーの内容も充分理解しないまま「参加することに意義あり」の考えにより参加させて頂きました。

私達の児童福祉施設関係では、同じ児童福祉施設同士のスポーツ交流については永年の経験がありますが、本大会は福祉施設関係という狭い範囲を越え、広く神戸市内の各地域、職域のサッカークラブが参加しており、児童の場合は、主として新興住宅団地のチームとの試合を通して交流の機会を与えて頂きましたことは、まさに私達にとって時代のニーズに即応したものであり、感謝致しております。

昨年、第1回大会参加の際は私達児童福祉施設関係者はミニサッカーのルール、マナー、技術など充分理解しないまま参加したため、大変ご迷惑をお掛け致しましたが、それを温かく指導頂きました。失礼があった点申し訳なく思っております。

さて、本年第2回大会参加に際しては、昨年の貴重な体験をふまえて、ミニサッカー大会の趣旨を充分理解し、努力した上で参加させて頂きました。

施設内で、児童と職員が充分話し合い、希望児童を対象に今年夏休みから早朝練習を続け、大会参加にそなえたものでありますが、大会試合に於て対戦したすべての新興住宅団地の子供達のチームに全敗の結果となりました。しかし、礼に始まり礼に終わるマナーについて対等に出来た点は、成果があったものと思います。また、参加した児童はそれなりに全力を出しよく頑張りました。この点についてはほめてやりました。

敗因についての反省を児童と職員で話し合ったのは次の2点です。

神戸市総合体育大会

アーセナル(長田区)初優勝

第31回神戸市総合体育大会サッカーの部は各区予選を勝ち抜いた7チームと区選抜2チームが参加して10月3日から神戸中央球技場サブグラウンドを中心に行われた。決勝は10月24日、ポートアイランド球技場で長田区代表のアーセナルと中央区選抜の間で行われ、春の市民大会で優勝のアーセナルが後半地方を發揮して5-0で下し、初優勝を飾った。

今年は神戸市に西区が新設された関係で9チームによる勝ち抜き戦となり、大会期間も1日増えて4日間となった。

また、中央区と北区は初めて選抜チームを編成し、両チームともチームワークよく活躍した。特に北区は市リーグ3部の北高OBと鈴高OBとの混成チームだったが、よくまとまり、フェアなプレーでベスト4に残ったのは立派だった。(一北保五郎)

＜第31回市総合体育大会結果＞

須磨クラブ(須磨区)	2	5	0
中央区選抜(中央区)	8	3	0
三菱重工(兵庫区)	1	1	0
神戸FC(灘区)	2	1	0
マックエルフ(東灘区)	1	0	0
北区選抜(北区)	2	0	0
川西西神戸(西区)	1	0	0
アーセナル(長田区)	6	4	0
月	光(垂水区)	2	0

なお、神戸市教育委員会は、今年度スポーツ関係で特に活躍した市内の個人、団体を神戸市体育功労賞として表彰した。サッカー関係では全国教員大会で優勝した兵庫教員蹴球団と五大都市大会に8回連続神戸市代表として出場した三菱重工神戸の前田正司氏(26歳)の2件が受賞した。

表彰式は第35回神戸市総体開会式にて行われ、神戸市教育委員長白川正美氏より楯とカップが渡された。

①体力的な差

養護施設児童の収容数の関係から男女混成チームでやっとなメンバーをそろえたのに対し、相手チームは全員男子でパワーの差が感じられました。

②練習量の差

夏休み中の早朝練習ぐらいで対抗できるものではなく、年間を通じて練習をする必要があると感じられました。

練習については児童と職員が話し合い、年間を通じて今後練習を続けることに決めて、現在も行っています。どこまでやれるか頑張っけて続けさせたいと思います。やりとげさせることにより貴重な体験としてより充実した人間形成がなされ、児童と職員の人間関係改善、忍耐力や礼儀の改善がされ、児童をとりまく諸問題の解消といった成果を期待しています。

今後とも、ミニサッカー大会関係者のご指導をよろしくお願い致します。

神戸市社会人運営会議予定 次回 12月16日(休)

1月20日、2月17日、3月17日、いずれも木曜日、18時30分から王子登山研修所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10 三木記念神戸市立スポーツ会館内 神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

1982 11月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651 ☎(078)232-0753
発行人および編集人 一北 四郎
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎(078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部50円

神戸のサッカー

第37回国民体育大会 島根くにびき国体 サッカー・少年の部

第37回島根県くにびき国体サッカー競技の部は10月4日より成年の部が浜田市で、少年の部が益田市でそれぞれ行われ、成年の部は一回戦で宿敵埼玉に0-2で苦杯を喫したが、少年の部では活躍目ざましく決勝に進出、静岡と1-1で引き分け、初優勝を飾った。

引き分け優勝とはいえ、兵庫の「日本一」獲得は県サッカー関係者悲願の達成であり、近年にない大殊勲であった。

決勝は静岡と分ける PK方式で退ける

準決勝は強豪東京を



◀主将としてチームをよくまとめた自らも得点して初優勝に大きく貢献した永島(対石川戦より)(写真提供イレブン)

▷準決勝(10月7日、島根県立サッカー場)

兵 庫 2 { 0-2 } 2 東 京
PK 4-1

準決勝の対戦相手は東京で、インターハイ優勝の帝京高を中心とした強力チームで苦戦が予想された。案の定前半、谷中、岸本の帝京勢に2点を失ったが、後半は兵庫も反撃し、20分に永島が見事なシュートを決めて1点差とし、さらに30分にも永島が右からのパスをボレーで決めて同点とした。その後も押し気味に試合を進めるも後半を終わって2-2、延長戦でも勝敗が決まらず、PK方式で決勝進出を決めることとなった。兵庫はGK石末がここで大活躍し、相手のキックを2つも止め、兵庫のキッカーは井上、和田、辻、石田の4人が次々と成功し、4-1で東京を下した。

▷決 勝(10月8日、島根県立サッカー場)

兵 庫 1 { 1-0 } 1 静 岡
0-0
0-0
0-0

決勝戦は過去最多優勝回数を誇る静岡との対戦となった。兵庫は過去2回静岡と対戦し2度とも敗れているので何としても打倒静岡を果し、優勝を勝ち取るべくファイト満々の試合を展開し、やや劣勢ながら守備陣の健闘からよく反撃し、井上のクリアを永島が和田一辻と横につなぎ、右前のウイング堤へ。堤は1度は敵BKにはばまれたがよくねばってセンターリングを上げ、永島がヘディングでゴール前に落した所を大迫が頭から飛び込んで先制点を奪った。しかし、静岡の猛攻をよく防いだ守備陣も後半、一瞬のスキを突かれて同点とされた。その後は両者得点なく、延長戦に入ったが、兵庫守備陣の大健闘で1-1のままタイム・アップ。大会規定により両者優勝となった。

待望久しいこの快挙に兵庫県の選手、ベンチのコーチ陣、協会関係者、スタンドで応援の選手の家族は跳び上がりばかりの喜び様であった。

表彰式では全員に賞状が与えられ、天皇杯

得点でも11.5点で静岡、埼玉、茨城と同位ながら1位の栄誉に輝いた。

監督の心鏡 一北 四郎

今回兵庫県少年選抜チームを率いて島根国体で優勝できてこんな嬉しい事はありません。私がサッカーを始めたのは32年前でしたがその当時、私の近くにはかつてのサッカー王国兵庫の名選手が多数おられました。

21年前、大学を卒業し指導者としてサッカー界に入った頃は兵庫のサッカーはかつての栄光は失われておりましたが、やがて先輩の方々がサッカー王国兵庫の復活をスローガンに兵庫サッカー友の会を結成し、少年サッカーの育成や国際サッカー場の建設と国際試合の開催を実現し、私も若輩ながら色々とお手伝いしながら今日にいたっております。諸先輩の営々と積み重ねてこられた努力の上に今回ようやく実を結ぶことができたと考えております。

しかし、一度の優勝で事成れりと考えてはいられません。真のサッカー王国復活には全国優勝だけでなく、全日本代表に兵庫出身者を送り出すことも大切です。今回全国優勝を勝ち取った選手諸君の中からぜひ全日本代表を目標に努力する人々が出ることを望みます。さらに、今回の優勝を勝ち取ることでできたのは少年、中学、高校の指導者を始め兵庫県下のサッカー関係者の努力のたまものであることを実感として分かち合い、一層の協力と努力で今後も次々と素晴らしい成果の上がるよう希望します。

今回の選手諸君の努力は誠に立派でありました。技術的、身体的な力のみでは今回の栄光は勝ち取れなかったと言えます。一番大きかったのは精神力だったと思います。勝とうとする意欲、苦しみに耐える忍耐、弱つていう味方をカバーする連帯感などは選抜チームと思えない見事なものでした。

選手諸君、ありがとう。今後の活躍と幸福を心より希望します。(2面に関係記事)

第4回神戸兵庫ライオンズ杯少年大会

I部 神戸FC・A、II部 多井畑D、III部 木津Aが優勝

神戸兵庫ライオンズクラブが後援する第4回神戸兵庫ライオンズ杯争奪少年大会は8月29日から御崎少年サッカー場を主会場として開幕され、I部(小6以下)46チーム、II部(小4以下)23チーム、III部(女子)21チームが参加した。

最終日の10月17日は、II部準決勝、決勝そして、他の部の決勝、3位決定戦が行われた。その結果、I部は神戸FCボーイズAが2年ぶり3度目の優勝、II部は多井畑Dが2年連続2度目の優勝、III部は木津Aが初優勝を果たした。

閉会式では田上市協会少年副委員長より各優勝、準優勝チームに神戸兵庫ライオンズクラブ寄贈の大きなカップと3、4位チームにトロフィーが贈られた。

なお、各優勝チームとIII部2部の高倉台Aは姫路市新日鉄広畑グラウンドで11月7日、14日に行われる第15回兵庫少年大会に神戸市代表として出場する。

▷I部決勝
神戸FC 2 { 1-0 } 0 千歳A
ボーイズ

I部の決勝は全日本少年大会県大会で2位の千歳Aと夏以降チーム力が向上してきた神戸FC・Aとの戦いになった。試合は決勝戦らしい激しい攻防が続いたが、FKをうまく決めた神戸FC・Aがペースをつかみ、終了

間際にも追加点を決めて粘る千歳Aを突き放した。

▷I部3位決定戦
多井畑A 2 { 1-0 } 0 みさきFC・A
1-0

▷II部決勝
多井畑D 4 { 1-1 } 3 神戸FC
3-2 ボーイズD

II部決勝は3年連続同じ対戦になった。試合は神戸FC・Dが得点すれば、多井畑が追いつくというシーソー・ゲームを繰り返したが、後手に回った多井畑がリードしてからは調子に乗り、4-3で逃げ切った。小4以下では全市最高の内容ある試合だった。

▷II部3位決定戦
成徳C 1 { 1-0 } 0 千歳F
0-0

▷III部決勝
木津A 1 { 1-0 } 0 高倉台A
0-0

III部決勝は3年連続決勝進出の高倉台Aと新鋭木津Aの対戦となった。立ち上がりすぐ木津Aがラッキーな先取点を上げた。それを取り返そうと激しく高倉台Aは攻めたが、シュートが不運にもクロスバーやポストに当たったり同点に追いつくことが出来ず、木津が逃げ切った。

▷III部3位決定戦 多井畑A 1-0 福住A

ユース地域選抜研修会へ

辻、井上、藤村

昭和57年度第6回ユース地域選抜研修会兼ナショナル・トレーニングセンター候補選手選考会が来る11月19日から22日まで、千葉県の東京大学検見川総合運動場で開催される。

この研修会は全国各地で育成されている優秀選手のなかから、将来国際的選手として成長しうる選手を発掘し、次代の日本サッカーを代表する有能な選手を育成する目的で始められた。

これに参加する関西選抜チームは去る8月25、26日と10月9、10日の4日間で近畿6府県の候補選手による選考会を実施し、下記の通り決まった。

兵庫県からは御影工高2年生の辻勝憲、同1年生の井上佳博、三木別所中3年生の藤村卓司の3名が参加する。

今年の研修会はこの2、3年行われていた方式を改め再び地域選抜の対抗リーグ戦を復活したため、従来からレベルの高い関東、東海に対し、関西がどのようなゲームを展開するか興味深い。今年の関西高校サッカー界はインターハイでの京都商、守山の活躍に続いて国体で兵庫が優勝するなどレベル向上が著しく、順位を決める大会ではないが十分に期待できそうだ。

兵庫県から出場する3名について、その特徴を見てみると、辻勝憲は国体代表として全試合に出場し、3年生に劣らぬ活躍をし優勝

関西選抜で参加

に貢献した。ボール・コントロールの巧みさ、状況を見る能力が関西選抜の中でも抜群のものを持つ。井上佳博はキープ力に優れ、運動量とボールに対する良い感覚を持っている。藤村卓司は夏の全国中学生大会で活躍し、優秀選手に選出された実績を持ち、スピードに乗ったプレーでゴールゲッターとしての能力が高く評価されている。

〈関西ユース選抜〉

【監督】伊藤洋一(滋賀県水口東高) 【コーチ】江見敏夫(京都府紫野高)・向井敬道(和歌山県新宮商) 【GK】下井竜一(山城高1)

【BK】東博樹(鴨沂高1) 小田村友治(高槻南高1) 宮本知之(京都商高2) 山下宏(栗津中3) 【MF】松山博明(衣笠中3) 井上佳博(御影工高1) 梅田英幸(水口東高1) 吉川龍也(清風高2) 辻勝憲(御影工2) 【FW】楠井智久(打田中3) 藤村卓司(別所中3) 新井雅文(高槻南高2)

市総体高校の部・市高校リーグ秋季大会終了

1部A組 滝川、B組 赤塚山

57年度市総体高校の部兼市高校リーグ秋季大会は9月12日から10月3日まで市内高校グラウンドで1部から3部まで34チームが参加して行われ、1部Aブロックでは滝川が、B

ブロックでは赤塚山がそれぞれ優勝した。

市内高校のレベル・アップを目標に55年9月より始まった高校リーグは、1部から3部まで実力によってグループを分けたことで、各部ともせり合った試合が多くなった。特に1、2部では2~3チームが同勝点で並ぶ混戦ぶりで、2年生以下の新チーム強化に大いに役立った。

〈神戸市総合体育大会高校の部・市高校リ

小→中→高
指導者の努力実る

＝くにびき国体初優勝＝

第37回国民体育大会において兵庫県少年選抜は1、2回戦で広島、埼玉を下し、準決勝では東京をPK方式で下して決勝に進出、決勝では実力ナンバー・ワンの静岡に押され気味ながら守備陣の大健闘で引き分け優勝に持ち込む活躍を見せた。全国のサッカーどころを次々に倒しての優勝はけっしてフロックでは実現できなかった。

兵庫県選抜が国体で決勝に進出したのは7年前の三重国体以来のことで、この時は決勝で静岡に敗れている。今回のこのような成果を上げることができた要因はどこにあるのか、監督で、県協会技術委員会副委員長の一北四郎氏に聞いてみた。

今回の栄冠を勝ち取ることができた要因を分析してみるといろいろと挙げることが出来るが、順序不同で列挙してみると、

(1)今回のチームは選手1人1人が技術的にも体力的にも一応のレベル以上の者がそろっていたが、その中でもCF永島、MF和田、GK石末の3名は全国的にもトップレベルの選手に成長していた。

(2)チーム・ワークが大変良く、単独チームにも劣らぬ和と信頼で結ばれており、規律正しい生活で個人としてもチームとしても正味に対するコンディショニングを立派に整えることができた。

(3)勝利に対する意欲が強く、勝つためにすべきこと、敗けないための手段を選手が自ら見出す努力をした。【例】コーチを含めたミーティングが終わった後、自分達だけでさらに話し合っ研究をし、味方の長所、弱点を知ってゲームに臨んだ。

(4)コーチ陣が昨年と同じで、しかも他県よりも多い5名で大会に臨み、選手のトレーニング、相手チームの研究、負傷者の手当、宿舎や会場での食事など選手のリフレッシュがベストに近い状態に保てたなど、コーチ陣の協力関係と分担が大変うまく行った。

(5)宿舎の環境が静かで選手はプレーに専念できた。宿舎の人々の温かい配慮もあって食事なども大変良かった。

(6)グラウンドは第1戦を除いて全て芝でやられたので兵庫の選手の技術が100%生かされた。

(7)今回のチームには前年の国体経験者が6名おり、その経験が生きていたことも大きい。また、何といても今回のチームの主力が、4年前に全国中学生選抜大会の優勝経験者で占められていた。この点については、このチームは高校の指導者のみならず小学校、中学校の指導者の努力の結晶であったことが特筆される。

グ結果>
【1部】Aブロック
①滝川 ②御影 ③神戸FC ④東灘
【1部】Bブロック
①赤塚山 ②六甲 ③御影工 ④北須磨
【2部】Aブロック
①神戸 ②八代 ③村野工 ④兵庫工
【2部】Bブロック
①星陵 ②長田 ③兵庫 ④灘
【3部】Aブロック
①須磨東 ②葺合 ③神戸工専 ④育英
⑤兵庫商
【3部】Bブロック
①神戸甲北 ②市神港 ③鈴蘭台
④夢野台 ⑤科技工
【3部】Cブロック
①鈴蘭台西 ②須磨 ③神戸西 ④神戸北
【3部】Dブロック
①市神工 ②伊川谷 ③私神港 ④舞子
なお、上級リーグ下位2チームと、下級リーグ上位2チームは入れ替え戦を行う。

サッカー

教え方 学び方

(10)

岩谷 俊夫

協力 毎日新聞社



ちょっとした広場、ビルの屋上、会社の昼休みともなれば5、6人が輪になってバレーボールをやっている。別に試合をしているわけでもない。空中パスを落とさないように楽しんでいる。ただその楽しみが、バレーボールの基本技につながっている点に注目しなければならぬ。これが「百万

人」のバレーへの発火点である。バレーボールの普及が、あとをたない理由だ。一歩日本を外に出れば、韓国にも、タイにも、ビルマにも、足のバレーボールが古くから民族遊戯として伝わっている。それはサッカーとは別に、競技形式をとって発展している国もある。

日本にサッカーが長く普及をはばまれてきた最大の理由は大陸から輸入された「蹴鞠(けまり)」が衣服とカルチャーにこだわり、貴族が儀式として重んじすぎたために、一般国民生活の中に遊びとして伝わらなかったためともいわれる。あるいは「足げりをする」という悪い言葉があるように、当時の風俗習慣が足を使う遊びを受け入れなかったのかもしれない。

その議論はさておき、明治の初期に日本にサッカーが持ち込まれてからも、サッカーといえばずうと広大なフィールド、正規の靴に高価な皮張りのボール、人数は11人といった儀式ばった観念があり、規則どおりでないとスポ

ーツはできない、といった石頭が多かったのではなかろうか。東南アジアの地域が「サッカーはボール1つあれば何人でも同時にけるし、第一はだしでもやる。つまり貧者に向けたスポーツとして発展した」というのと比べたら、考え方に月とスッポンほどの差がある。

手で突き上げて落とすまいとするバレーボールが楽しいなら、足でポンポンと

けり上げるバント・キックが楽しくないはずはない。最初はつま先をのぼし、足の甲を平らにしてキャッチボールのときと同じ要領でポンと当てる。けり上げる、足を振り上げる、といった感じではなく、甲の上にボールが乗るといふか、押し上げるようなつもりでよい。輪になっている関係ですぐ再び自分のところへは返ってこない。まだこのときは、すぐ次の動作を考えることはない。

それまで使ったことのない足だけに、とっかかりはむずかしい。だが、むずかしいから他人のできないことをできたとする優越感も大きからう。この足バレーは中学校のサッカー部では相当浸透してきた。足芸の楽しみは空中から。つまり正しいフォーム、本当のボールへの楽しみも空中からである。空中ボールはごまかしのフォームでは通用しないからだ。初心者には決して地上のボールから教えないでほしい。

練習 5、6人が輪になり、最初はリーダーが円陣の中心に立つ。けりやすいボール以外のときは、ヘディング、ひざのキック、胸のストップなどを繰り返してやる。最初は足では失敗しそうなか、すぐヘディングだけで続けようとしすぎ

はいけないなどと、ルールを作ってしまう。

部した子があった。「サッカーの連中はいつも汗をかいてへばっている。それがうらやましかった」のだ。汗にまみれる。へばっているのを歯を食いしばってがんばる。それは若者

だろう。ボールを扱いながらも、耐久力を高める練習法はいくらでも

ある」という忠告を思い出そう。

ボール練習で耐久力をつけるのは狭いグラウンドでもできる。ボールに飛びついていくダッシュを繰り返しているうちに、知らず知らず何千回という距離を走ることにもなる。へばれば猛練習に見えるが、問題はその質である。安易なへばり方はやさない。ボール

の美しい姿に違いない。しかしサッカーでは、いつなんどき、どこからボールがくるかわからない。その瞬間の速い体のこなしが勝負だから、グラダラと息がつづいてみても、役に立たない。体がビチビチと反射的に動く。つまり短距離も速い。つまりすばしい体つきでなければ、いくら息がつづいてもボール

ある市内の中学で、他の運動部からサッカー部に転

部した子があった。「サ

カーの連中はいつも汗をかいてへばっている。それがうらやましかった」のだ。汗にまみれる。へばっているのを歯を食いしばってがんばる。それは若者

だろう。ボールを扱いながらも、耐久力を高める練習法はいくらでも

ある」という忠告を思い出そう。

ボール練習で耐久力をつけるのは狭いグラウンドでもできる。ボールに飛びついていくダッシュを繰り返しているうちに、知らず知らず何千回という距離を走ることにもなる。へばれば猛練習に見えるが、問題はその質である。安易なへばり方はやさない。ボール

の美しい姿に違いない。しかしサッカーでは、いつなんどき、どこからボールがくるかわからない。その瞬間の速い体のこなしが勝負だから、グラダラと息がつづいてみても、役に立たない。体がビチビチと反射的に動く。つまり短距離も速い。つまりすばしい体つきでなければ、いくら息がつづいてもボール

ある市内の中学で、他の運動部からサッカー部に転

部した子があった。「サ

カーの連中はいつも汗をかいてへばっている。それがうらやましかった」のだ。汗にまみれる。へばっているのを歯を食いしばってがんばる。それは若者

だろう。ボールを扱いながらも、耐久力を高める練習法はいくらでも

ある」という忠告を思い出そう。

ボール練習で耐久力をつけるのは狭いグラウンドでもできる。ボールに飛びついていくダッシュを繰り返しているうちに、知らず知らず何千回という距離を走ることにもなる。へばれば猛練習に見えるが、問題はその質である。安易なへばり方はやさない。ボール

の美しい姿に違いない。しかしサッカーでは、いつなんどき、どこからボールがくるかわからない。その瞬間の速い体のこなしが勝負だから、グラダラと息がつづいてみても、役に立たない。体がビチビチと反射的に動く。つまり短距離も速い。つまりすばしい体つきでなければ、いくら息がつづいてもボール

明日の栄光を
勝ちとれ!

▲80年代をリードする ャンガー サッカーウェア



SOCCER WEAR, PANTS, STOCKING

スポーツの進歩を促す
MONT
BLANC
モブラン株式会社

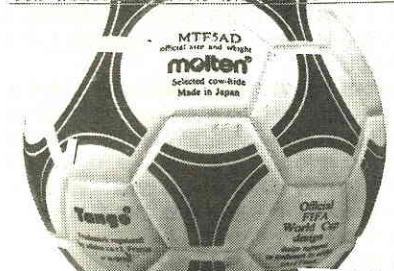
写真はマーカーM11・ケリー

markam
マーカー・サッカーシューズ

マーカーM11 ケリー・レッド・ブルー・イエロー
*サイズ:18.0~28.0 標準小売価格 ¥4,300
マーカー22 ホワイト・ケリー
*サイズ:22.0~28.0 標準小売価格 ¥6,000
マーカー33 ホワイト
*サイズ:22.0~28.0 標準小売価格 ¥7,800



充実のモルテンTango
サッカー界の新しいスタンダードなサッカーボール



モルテン工業株式会社
広島/東京/大阪/名古屋/福岡/札幌